

美郷村の貝類相

クモ類・貝類班 (徳島県博物同好会)

河野 圭典*

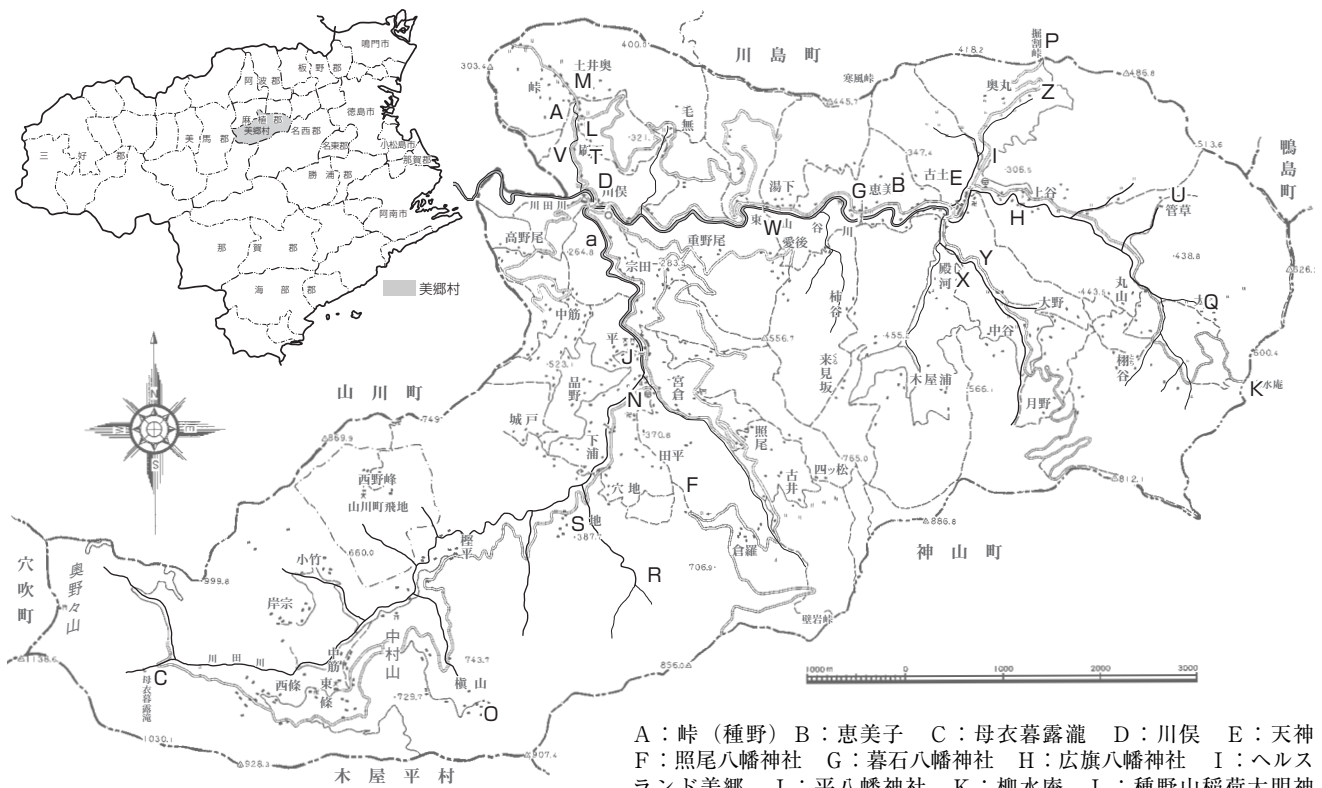
1. はじめに

平成15年度的美郷村総合学術調査に参加し、美郷村内の池や川の淡水産貝類と山林を含め陸地に生息する陸産貝類の調査に当たった。

調査報告としては、阿部が1957年・1966年・1970年に村内の恵美子と別枝で採集した報告と、環境庁

自然保護局 (1993) と自然環境研究センター (2002) がまとめた報告書がある。前者は美郷村の一部の調査であり、後者は分布図となっていて地区調査としての詳細ははっきりされていない。

今回確認できた貝類を「その1」、「その2」、そして「その3」と分け、その間に淡水産を記したのは系統分類学に従ったからである。



A: 峠 (種野) B: 恵美子 C: 母衣暮露瀧 D: 川俣 E: 天神
 F: 照尾八幡神社 G: 暮石八幡神社 H: 広旗八幡神社 I: ヘルスランド美郷 J: 平八幡神社 K: 柳水庵 L: 種野山稲荷大明神
 M: 種野山八幡神社 N: 宮倉八幡神社 O: 東横山薬師堂 P: 掘割峠 Q: 大鹿 R: 倉羅峠 S: 穴地 T: 刷石 U: 赤水谷川 V: 種野谷川 W: 東山谷川 X: 殿河谷川 Y: 中谷川 Z: 奥丸谷川
 a: 川田川

第1図 調査地点と水系

* 鳴門市携養町黒崎字宮津157-9

2. 調査方法と調査地点

調査は次の方法で調べるための観察条件の見通しを立てるために列記した。

- (1) 陸に生息する貝類には
 - 池や谷川に生息するもの
 - 陸上を主にはって生活するもの
 - 地上を活動の場とするもの……………冬期は冬眠のため地上へ
- (2) (1) の生息のための地勢を調べる
 - 地面のようす
 - 砂礫の具合……乾燥の度合い、日照条件と腐蝕の具合
 - 土砂の具合……乾燥の度合い、日照条件、落葉具合
- (3) 高木や草木、そして樹木の様子
- (4) 低木や草木、そして樹木の様子
- (5) 蔓草の繁茂状態
- (6) 倒木の倒れ具合、倒木のあるところ
- (7) 石垣や碎石の積んである所
- (8) 廃屋のあるところ

調査は図1の27地点を対象に行った。調査地点としては、採集に比較的安定した個体数が確認できる神社の境内と付近の民家の敷地内の樹木や生垣、その下の繁みあるいは地面を対象として選定した。また、一部原生林を維持しているブナ林のある母衣暮露の瀧付近を選定の対象とした。

河川の調査地点は7箇所を選定の対象とした。

調査は2003年7月27日から7月30日までと8月1日から4日までの通算8日間に行った。

3. 生息が確認できた貝類および過去に確認されている貝類

(注：学名は主として文献3による)

1) 文献記録のある貝類（採集地は総て別枝・恵美子）

1. *Pinguiphaedusa pinguis platydera* (Martens, 1876)
ツムガタギセル
2. *Tyrannophaedusa (Spinulaphaedusa) nankaidoensis nankaidoensis* Kuroda, 1955
コシボソギセル

3. *Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa) bilabrata* (Smith, 1876)
シリオレギセル
4. *Tyrannophaedusa (Tyrannophaedusa) proba caryostoma* (Moellendorff, 1882)
ナラビヒダギセル
5. *Yamatochlamys lampra* (Pilsbry&Hirase, 1904)
オオクラヒメベッコウ
6. *Satsuma (Satsuma) ferruginea* (Pilsbry, 1900)
シメクチマイマイ
7. *Aegista (Aegista) awajiensis* (Gude, 1900)
ジタロウマイマイ
8. *Euhadra awaensis* (Pilsbry, 1902)
アワマイマイ

2) 今回確認できた貝類

(注：学名は主として引用文献(2)(3)(4)(5)と(6)による)

(1) 陸産貝類……………その1

Family Cyclophoridae ヤマタニシ科

1. *Cyclopholus herklotsi* Martens, 1860
ヤマタニシ
峠(種野)・天神・照尾八幡神社・ヘルスランド美郷
模式産地：長崎
分布：関東地方以西日本各地 朝鮮南部九州屋久島まで。
生態：山林内の落葉下の地上に生息する。県内全体の山地に分布。殻口は円く、丸い蓋を有するので容易に他と区別がつく。
2. *Cyclotus campanulatus* Martens, 1865
アツブタガイ
峠(種野)・天神・暮石八幡神社
模式産地：日本
分布：本州以南日本各地、種子島・屋久島まで
生態：やや円錐形の貝で、蓋は石灰質で厚くて円く、一見平らである。山林内に普通。樫の自生地を好む。

Family Spirostomatidae ヤマグルマガイ科

3. *Spirostoma japonicum japonicum* (A. Adams, 1867)
ヤマグルマガイ
峠(種野)・天神・広旗神社・照尾神社
模式産地：対馬
分布：近畿地方以西、日本各地(種子島・屋久島まで)、朝鮮南部
平たい円盤状の貝で臍孔は広く大きい。蓋はぐるぐる巻きの塔状の特異な形。殻から外に向って突き出ている。

(2) 淡水産貝類……………その2

Family Viviparidae タニシ科

4. *Cipangopaludina japonica* (Martens, 1860)
オオタニシ
毛無
模式産地：日本

分布：東北地方以南、四国、九州、台湾、朝鮮
 生態：冷水池（夏季の水温13℃程度）を好む。国内で最も大形のタニシで、殻高は60mmに及ぶものもある。主に池、沼、川に生息。猪井治夫家の池に生息とのことで調べた。水田の一部に人工の池を設けていた。現在、半ば放置された池で、水深は土砂が堆積して休耕田と同じレベルの浅さであった。佐藤正勝（ホタルの館館長2003）の話では、猪井家の先代が他地域から持ち帰り蛋白源確保のために飼育していたらしい。環境悪化（生息地であった場所は休耕田の端を池にしていた。永年の放置のため土砂が池であった場所に度々の大雨による影響で堆積し、冷水を生息環境の条件の一つとする本種にとって生息不可能を余儀なくされた。）で既に死滅しており、池の周縁で死殻を確保して査定できた。

5. *Sinotaia quadrata histrica* (Gould, 1859)

ヒメタニシ

毛無

模式産地：奄美大島？

分布：本州以南、四国、九州、奄美大島

生態：多少汚染された水質の池や川や溝に生息。

小型のタニシ。上記の猪井家の池にオオタニシと共生。数個体しか生息していなかった。このタニシはやや汚れた小川や沼に生息するもので、オオタニシと同一場所に生息することは人為的以外にはまず考えられない。他の地域から持ちかえって飼育されたことが察せられる。かつては、この貝も農家では食用にされてきた。

Family Pleuroceridae カワニナ科

6. *Semisulcospira libertina* (Gould, 1859)

カワニナ

種野谷川・中谷川・殿河谷川・奥丸谷川・川田川

模式産地：伊豆下田

分布：北海道以南、日本全国、沖縄まで、朝鮮・台湾

生態：国の指定のホタルの里であるから、ホタルの餌になることは承知のことであろう。川田川を主としてたくさん貝が見うけられる。1971年に閉鎖された東山鉱山付近を水源とする赤水谷川のみ、鉱毒に起因するためか本種の姿は見受けられない。

佐藤（美郷ほたる館館長2003）によれば、以前（昭和初期）には本種の剥き身をミソ和えにして食べる習慣が種野谷川付近の住民にはあったと伺った。

7. *Semisulcospira* sp.

カワニナ属の一種

暮石八幡神社

小型のカワニナ属で同定ができなくてはっきりしないので一種とした。暮石神社の拝殿に向って左側に小さな泉がある。手洗いか飲料用水に用立てている様子が察せられる。そこの四角い水溜りの泉に本種が生息している。多分、村内の何れかの谷川から持ち込んだものと考えられるが、貝の殻長が短いので違った種かも知れない。

カワニナ属の分類については数多くの種、亜種、型が記録され、また最近では染色体数による分類も一部の種について示されているが、それも未完である。属についてもビワ湖産のものについて *Biwamelania* が記載されているが、

彼此錯綜しているし全部の種についての分類が確立していない。既報の分類では本種はどの範疇に属するのかわかりできないので、カワニナ属の一種に留めた。もう一つのカワノナ属の分類には、胎殻を取り出しその胎殻数によって査定することが最近の傾向であるという（増田修私信2003）。本種の殻色はカワニナ属独特の色彩を持っているが、殻長が非常に矮小であることと本種が未成熟のため、胎殻の所見ができなかったのでカワニナ属の一種とした。

(3) 陸産貝類……その3

Family Clausillidae キセルガイ科

8. *Pinguiphaedusa schumackeri* (Sykes, 1895)

シマケルギセル

照尾八幡神社

模式産地：四国剣山 (Kinnayama)

分布：徳島県以西、高知県、香川県、愛媛県、九州中・東部（大分・宮崎・熊本県東部）

生態：別枝と恵美子で採集したツムガタギセルより殻長が短いキセルガイである。殻口には、向って右側の側面に入形を呈するブリカを見ることが出来る。（種特有の付属物）

9. *Pinguiphaedusa ignobilis* (Sykes, 1895)

アベギセル

暮石神社

模式産地：徳島県剣山

分布：剣山を中心とした四国東北部山岳地帯

生態：山地の礫堆積地にすむが、個体数は少ない。国と県のRDB（レッドデータブック）絶滅危惧Ⅱ類＝絶滅の危機が増大している種に指定されている。この貝は本県の生んだ植物学者阿部近一氏に献名されている。ブリカの形はイヨギセルやシマケルギセル・ツムガタギセルに近似している。徳島県固有の種。

10. *Pinguiphaedusa expansilabris* (Boettger, 1877)

チビギセル

峠（種野）・広旗八幡神社・暮石八幡神社

模式産地：日本

分布：東北、北信越、東海、近畿、中国、四国

生態：森林内の倒木や朽木に付着していることが多く割合に見つけやすい。貝殻は小型で比較的堅固で紡錘状。本種は近似種のアワジギセルと比較して、ブリカに下腔襞を持っているため「エ」字形となるので区別できる。

11. *Pinguiphaedusa awajiensis* (Pilsbry, 1900)

アワジギセル

暮石神社・広旗神社・峠（種野）・柳水庵

模式産地：淡路島福良

分布：近畿（淡路島、和歌山市）、四国、九州（大分県、宮崎県、熊本県）に分布し、湊（1982）に襲速紀要素型分布として報告されている。

生態：朽木や倒木の下などに棲む。

チビギセルに混同されるキセルガイである。しばしばチビギセルと混棲する場合があるが、本種は下腔襞を欠くことで区別される。

12. *Tyrnnophaedusa* (*Tyrnnophaedusa*) *platyderula* (Pilsbry, 1903)

シタヅキギセル

照尾八幡神社

模式産地：高知県安芸市

分布：高知県東部、徳島県南部（阿南市、海南町、由岐町、日和佐町等）

生態：倒木や落ち葉の下などに棲む。

殻は小～中型のキセルガイである。美郷村からは採集できなかったウスベニギセルに最も酷似するが、殻色が淡黄褐色～褐色であることからウスベニギセルとは区別できる。

13. *Tyrannophaedusa (T.) proba* (A. Adams, 1898)

ゼイギセル

母衣暮露瀧

模式産地：和歌山県紀伊大島

分布：近畿（中・南部）～四国（北東部）

生態：朽木の下や落ち葉の中に棲む。幹の空洞部にもいることがある。

本種は月状襞を欠くのでミカドギセル亜属の他種とは容易に区別される。このキセルガイは学名変更以前はナラビヒダギセルと別種に扱われていた。この貝の分布を美郷村を中心に見てみると、南は木屋平村、東は大麻比古神社、西は伊島に棲息が記録されている（自然環境センター2002）。

14. *Megalophaedusa martensii* (Martens, 1860)

オオギセル

母衣暮露瀧

模式産地：日本関東

分布：関東地方西部以西、東海、中部、近畿、中国地方東部、四国東部

生態：森林下の落ち葉堆積中や朽木の下などに棲む。

本種は世界最大のキセルガイ科貝類で、日本の他種のキセルガイとは殻の大きさが大きいことで容易に区別がつく。別名マルテンスギセルとも呼び、C. E. von Martens (1831～1904) に献名。ブナ林やコナラ林などのカシ類の樹林内に生息する。今回はブナ林の樹幹に這いあがっているのを採集することができた。

15. *Stereophaedusa (Stereophaedusa) japonica* (Crosse, 1871)

ナミギセル

峠（種野）・暮石八幡神社

模式産地：日本（具体的産地は不明）

分布：本州全域、四国、九州（中・北部）

生態：森林内の朽木や落ち葉の堆積中などに棲むが、割合に個体数が多い。卵胎生。広域分布型で多くの変異がある。群馬県の農村ではこの貝のことをカンニャボと呼び、幼児の疳の虫を抑えるために漢方薬として用いられるそうである。

Family Enidae キセルガイモドキ科

16. *Mirus japonicus daishianus* (Kuroda, 1945)

ダイシキセルガイモドキ

照尾八幡神社

模式産地：徳島県麻植郡高越山

分布：徳島県のやや鉾山地帯

生態：倒木の陰や樹木の幹に付着している。

徳島県特産の陸貝である。弘法大師に因んで命名された貝である。学の権威である黒田徳米博士が命名。照尾神社の僅かな原生林残存の一角で見つけることができた。

Family Subulinidae オカクチキレガイ科

17. *Allopeas clavulinum kyotoense* (Pilsbry & Hirase, 1904)

オカチヨウジガイ

川俣

模式産地：京都山城

分布：北海道以南、本州、四国、九州、伊豆諸島等、日本全域

生態：人家やその付近の雑木などの根や原野芝生の根元でも見つかる。

村の公民館の駐車場で雑草を刈り入れたのを堆積した枯草の中で見つけた。1 cm程度の微小貝。殻は半透明で薄く軟体が淡黄色に透けて見える。

Family Camaenidae ナンバンマイマイ科

18. *Satsuma (Satsuma) myomphala myomphala* (Martens, 1865)

コベソマイマイ

峠（種野）・天神・照尾神社・平神社・母衣暮露瀧

模式産地：日本

分布：関東地方（群馬県）以西の本州、四国、九州の全域およびその属島

生態：日差しの少ない山林内の倒木や落葉下で目だって生息。アメ色をしたカタツムリといって過言ではないだろう。きれいな色をしたカタツムリである。今回の調査で最も目についた。

19. *Satsuma (S.) feruginea* (Pilsbry, 1900)

シメクチマイマイ

峠（種野）・照尾神社・暮石神社・天神

模式産地：備前岡山

分布：本州西部（三重県地方）以西、中国、四国、九州及び属島

生態：雑草の下草の中に棲息。

一般にカタツムリの呼称で親しまれているセトウチマイマイの1/4位の大きさで、丸みのある形をしている。小豆色～褐色をしている。体層の周りには栗色の色帯がある。

20. *Satsuma (S.) japonica heteroglypta* (Pilsbry, 1900)

コニホンマイマイ

峠（種野）・広旗神社・種野山稲荷大明神・照尾神社

模式産地：四国（瀬戸内海側の地域）・大阪湾周辺・島根県・山口県

生態：雑草の下草に生息。

上記のシメクチマイマイに殻や大きさが近似しているので混同しやすい。やはり丸みのある円錐形をしている。体層周辺には不明瞭な周縁角や色帯がある。

Family Bradybaenidae オナジマイマイ科

21. *Aegista (Aegista) awajiensis* (Gude, 1900)

ジタロウマイマイ

峠（種野）・天神

模式産地：淡路福良（兵庫県三原郡南淡町）

分布：淡路島以西、四国東部地域

生態：やや乾燥した落葉下に生息。

和名は飯島魁博士が山崎治太郎を記念して命名された。円盤状の円錐形の貝で褐色で周縁は角ばり、殻表には鱗のような毛が生えている。セトウチマイマイのような薄い殻口ではなく、唇縁は白く輝き著しく厚く、反転している。

22. *Trishoplita awajiensis* Pilsbry, 1901

アワジオトメマイマイ

母衣母露瀧・照尾神社

模式産地：淡路阿那賀（兵庫県三原郡西淡町）

分布：近畿地方南部（三重・和歌山県）、淡路島、四国（徳島、香川県）、朝鮮？

生態：日当たりの良い草むらに生息。

非常に小型のカタツムリで7mm程度の大きさ。半透明でやや光沢があり青白色の殻をしている。周縁には弱い角がある。環境省自然環境局（2002）の報告では、阿讃山地東部から県部の海岸よりの地方に分布が確認されているが、山間部で確認できたのは初記録である。

23. *Euhadra bnimbosa* (Kobelt, 1894)

セトウチマイマイ 峠（種野）

模式産地：日本

分布：近畿地方西部以西、中国地方、四国、九州（大分・宮崎県）

生態：生垣や柑橘類あるいはビワなどの果樹の葉や樹幹に見られるいわゆるデンデムシやカタツムリの呼称で親しまれている陸貝である。殻の周囲に黒味を帯びた筋があったり、帯無しがあったり、4つのタイプがある。世間ではあまり必要がないのか、和名のセトウチマイマイは案外知られていないのが実状。最近では屋敷の周囲を生垣からブロック塀に改めた民家が多くなり、その姿が見うけられなくなった。村内を歩いたが、採集ができたのは峠（種野）地区のみであった。

著者は幼少の頃この貝を母の実家で食べた記憶があり、以前から県内の板野・阿波・麻植郡内でこの貝を食べるとの噂を耳にしてきた。当村の現状を佐藤正勝氏（美郷ホテル館長2003）に伺うことができた。美郷村では昭和はじめ頃までは食べる習慣が残っていたし、証しとして彼も実際に幼児期に食した経験のあることを語ってくれた。

3. まとめ

これまで陸産・淡水産貝類についての美郷村全域の調査ができていなかったところへ、集中的に調査に入ることができた。昨年調査した三野町、一昨年調査した佐那河内村と同様に、何れの町村の山野も30年前に訪れた頃と異なり、山の頂上から麓に至る

まで乾燥しているのに驚かされた。理由として、陸産貝類（軟体動物）は湿度の高い環境を棲息域としているし、乾燥に絶えられず白化した殻が散在していたからである。陸産貝類の多様性が認められる隣接した神山町や高越山を近くに控えた美郷村では多種類の貝類の採集を期待していたが、豊富とは言えなかった。しかしながら、稀少種のアベギセルを得られたことは幸いであった。

美郷村は国指定の天然記念物となっているホタルの里として有名である。村全体が指定であるにもかかわらずホタルの乱舞しない場所がある。そこは鉱毒の流入する谷川であることがわかった。ホタルの幼虫の餌となるカワニナが生息しないからである。

文 献

- (1) 黒田徳米・阿部近一（1980）：「徳島県陸産並びに淡水産貝類の分類と分布について」徳島県博物館紀要、第11集、徳島県博物館。
- (2) 肥後俊一・後藤芳央（1980）：『日本及び周辺地域産軟体動物目録』エル貝類出版局。
- (3) 阿部近一（1981）：『徳島県陸産並びに淡水産貝類誌』教育出版センター。
- (4) 環境庁自然保護局（1993）：『第4回自然環境保全基礎調査・動植物分布調査報告書（陸産及び淡水産貝類）』環境庁自然保護局。
- (5) 環境庁自然保護局（1993）：『第4回自然環境保全基礎調査・動植物分布調査報告書・別冊・分布図（陸産及び淡水産貝類）』環境庁自然保護局。
- (6) 湊宏（1994）：『日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究』日本貝類学会別冊。
- (7) 東正雄（1995）：『原色日本陸産貝類図鑑増補改定版』保育社。
- (8) 徳島県版レッドデータブック掲載種選定委員会（2002）：『徳島県の絶滅のおそれのある野生生物—動物編—、徳島県環境政策課編。
- (9) 自然環境研究センター（2002）：『生物多様性調査・動物分布調査報告書・（上）（陸産及び淡水産貝類）2分冊の1』環境省自然環境局 生物多様性センター。
- (10) 自然環境研究センター（2002）：『生物多様性調査・動物分布調査報告書・（下）（陸産及び淡水産貝類）2分冊の2』環境省自然環境局 生物多様性センター。
- (12) 湊宏（1984）襲速紀要素型分布をするキセルガイ科貝類、24（1）：8-11、南紀生物。
- (13) 増田修（2003）カワニナの分類について（私信）。